

# 東高 国際だより

平成30年12月10日  
京都府立東舞鶴高等学校  
国際教育部発行  
2018 vol. 8

## 3年国際文化コース 着付け・茶道・華道実習

3年国際文化コースの日本文化の授業で、11月7日に着付け・茶道実習、11月14日に華道実習を実施しました。どの取組も日本の伝統文化に対する理解を深めることを目的とし、それぞれ京都きもの学院、裏千家・池坊舞鶴支部からの各先生方に講義及び実習をお世話になりました。短い時間でしたが、生徒は伝統文化の一端に触れ、貴重な体験ができました。

【感想】石澤 千蓮(若浦中学校出身) 生け花は思ったよりもバランスをとるのが難しかったです。自分がイメージするような感じで生けることができよかったです。また、なるべく前に花を出すようにするときれいに見えること、思い切って花を生けることが大切だと分かりました。



## 2年国際文化コース 異文化理解・外国語講座 歌と会話で楽しむ中国語 舞鶴市国際交流員 朴蓮姫さん

2年国際文化コースで舞鶴市国際交流員の朴さんによる中国の文化についての話と簡単な中国語会話の特別授業が11月8日にありました。

1限目は、中国の文化の概要を話されました。多種多様な民族の存在、交通事情、携帯社会、各地の祭り、教育、有名観光地、姉妹都市の大連市などについての話が続きました。また、12月の台湾での研修旅行に向けて、2限目は四声と自分の名前中国語読みの練習をしっかりと指導して頂きました。



### 中国語ワンポイントレッスン

我(ウォ) 来(ライ) 自(ズー) 日(リィ) 本(ベン)・京(ジン) 都(ドゥ) 府(フー)・舞(ウ) 鶴(ホ) 市(シー)・東(ドン) 舞(ウ) 鶴(ホ) 高(ガオ) 中(ジョン)。  
私は日本の京都府舞鶴市東舞鶴高校から来ました。

妳好 ニーハオ 〈こんにちは〉 再見 ザイジエン 〈さようなら〉 謝謝 シェーシェー 〈ありがとう〉 不客气 プーカチ 〈どういたしまして〉 對不起 トゥイブーチ 〈すみません〉 沒關係 メイグァンジー 〈かまいません〉 聽不懂 ティンブードン 〈わかりません〉



大連 港湾都市

## 地歴科主催 特別授業 「韓国の若者・日本の若者」 金津 日出美 立命館大学准教授講演

2年国際文化コースと3年日本史・世界史選択者を対象に、立命館大学の金津先生による講演が11月16日に行われました。I部は主に日韓共同世論調査の結果から見てくる日韓の若者の考え方の違いなどを話されました。II部は金津先生、留学生のキム・ナヒョンさん、英語科の野田先生によるパネル・ディスカッションがあり、生徒から恋愛、食文化、観光スポット、芸能、受験、就職などに関する質問を受け、興味深い話が展開されました。



韓国の高校生はどんな一日を送っていますか？

## 平成30年度府立高校生 夢チャレンジ留学支援事業 選考結果！

2年4組本田琴音さん(川口中学校出身)が選考に選ばれました。冬休みにアメリカ・ロサンゼルス語学学校に留学の予定です。その体験については次号で報告します。

## 要らない文房具大募集！ ～ネパールの子供達へ～

11月21日～12月20日

使わなくなった色鉛筆、マジック、消しゴム、子供用はさみ、のり、絵の具、カッター、縄跳び、リコーダー、笛を下さい！ 職員室・各階階段の計4カ所の箱へ。

生徒会主催

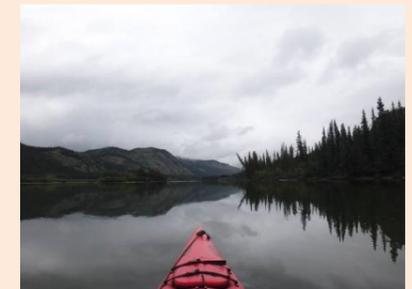
## 東高先生の Another Sky 7回目 川上 大介 先生 (芸術科)

2012年、私はそれまでしていた仕事を辞め、無計画で行き当たりばつりの旅に出ました。日本を出て中国から東南アジア、中東、ヨーロッパ、アフリカ、南米へと西へ西へ移動し、1年後カナダのホワイトホースという街に辿り着きました。目的は「ユーコン川をカヤックで下る」ことでした。レンタルカヤックショップの扉を開けると強面のおじさんがひとり。カヌーを借りたい旨を伝えると、彼に「出発をしたら8日間町はおろか道さえもユーコン川に接しない。野生のヒグマや狼など野生動物しかいない自然の中で君は生き抜けるか？」と聞かれました。唾を飲む私…自分にそんな力はあるのだろうか悩みましたが、ここで自分の知恵や技術、運を試そうと覚悟を決め、『死んでも訴えません』という書類にサインをしました。カヤックの小さな荷室に積める荷物(テントや寝袋、食料)をホームセンターやスーパーで買い揃え、何とか準備完了です。

翌日、何のレクチャーもないまま私の川下りは始まりました。漕いでいるのか流されているのかも分からず、頭の中は不安と後悔でいっぱいになります。そのうち強い雨が降り始め濡れながらテントを設営。テントの横には信じられないくらいデカイ熊の足跡がありました。夜、目をつぶろうとしてもリスの足音さえクマの足音に聞こえ全く眠れません。その翌日も雨、そんな中毎日60kmほどを漕ぎ進みます。3日目やっと雨が上がり、私は川原で火を焚きながら飲み水を作っていました。すると対岸で「ガサッ」と音がします。顔を上げるとそこにはほどこかいムース(ヘラジカ)の親子がこちらの様子を伺っていました。その距離10メートル。見つめ合う私とムースの親子。その時間はたった3分ほどだったかもしれませんが、とても長く感じました。それまで落ち込んでいた気持ちもこの出会いをきっかけに上向きになっていきます。白頭鷺、カワウソ、ビーバーなどたくさんの野生動物が私の近くを通り過ぎていきます。夜中トイレに行きたくなりテントを出ると、空にはオーロラが揺らめいていました。気持ち次第で見えるものが全く違ってくるのです。そして最終日、あれだけ後悔していたにも関わらず、川から上がるのが淋しくて仕方ありませんでした。川から上がりヒッチハイクでホワイトホースまで帰り、私のユーコン川下りは終わりました。

私は今もよく8日間を思い出します。ひとりでやり遂げたという自信を得ることができましたし、たったひとりで圧倒的な自然と向き合ったことで自分の無力さを知ることができました。

人生はトライ&エラーです。できるようになるのを待っていてもものごとは始まりません。また安全な場所には分からないことがたくさんあります。自分の知らない世界、自分ができないことに挑戦してください。たとえ失敗してもその経験はあなたを強くします。



「国際だより」は下のQRコードからもアクセスできます。

